



津村重舎 篇1

製薬企業の創業者が輩出した宇陀

推古天皇 19 年（611）、日本最初の薬猟が宇陀で行われました。

また、享保 14 年（1729）、大宇陀拾生に民間の薬園が開設され、薬種商としても発展していき
ました。この薬園は、「史跡 森野旧薬園」として今日に至っています。

このような例からも明らかのように宇陀地方は、各種の薬草の供給地であったことから、大和の中
南和地域を中心に薬種業、製薬業者が盛んとなりました。天明3年（1783）には、薬種屋株、合薬
屋株の設立が奈良奉行所で認可されています。宇陀地方にも薬種、和薬、合薬を扱う店が多くあり、全
国的に名を馳せていたようです。

このような状況のもと、近代にいたっては、宇陀地域からは、何人もの製薬企業の創業者が輩出し
ました。

津村重舎は、明治 26 年（1896）に「中将湯本舗津村順天堂」（現 株ツムラ）を創業し、同時
に、故郷から受け継いだ秘薬を元に改良した婦人保健薬「中将湯」を発売しました。この秘薬とは、母
の実家が檀家である青蓮寺に代々伝えられていたもので、中将姫をかくまった時の御礼に製法を教え
られた薬（中将湯）であったといわれています。

明治 33 年（1900）、「中将湯」を製造する過程で、屑を従業員が持ち帰り、風呂に入れたと
ころ、夏のあせもが消え、冬には体がよく温まるということがありました。この経験をヒントに、「く
すり湯中将湯」を発売し、さらにこれを改良し、現在の入浴剤「バスクリン」となっています。また、
大正 13 年（1924）には、漢方生薬の研究を目的として、津村研究所と津村薬草園を設立していま
す。

